

薬事に関する法規と制度（20問）

【問1】 毒薬または劇薬に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 毒薬とは、薬事法第44条第1項の規定に基づき、毒性が強いものとして厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて指定する医薬品をいう。
- b 毒薬は、店舗管理者が薬剤師である店舗販売業者において、開封して販売することができない。
- c 劇薬は、他の物と区別して貯蔵、陳列するとともに、貯蔵、陳列する場所にはかぎを施さなければならない。
- d 劇薬は、14歳未満の者その他安全な取扱いに不安のある者に交付することが禁止されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正

【問2】 毒薬に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

毒薬は、それを収める直接の容器または被包に、（ a ）に（ b ）をとって、当該医薬品の品名及び「毒」の文字が（ c ）で記載されていなければならない。

	a	b	c
1	白地	赤枠	赤字
2	黒地	白枠	赤字
3	白地	黒枠	黒字
4	黒地	白枠	白字

【問3】 一般用医薬品のリスク区分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 新一般用医薬品は、承認後の一定期間、第一類医薬品に分類される。
- b 第三類医薬品は、第一類医薬品及び第二類医薬品以外の一般用医薬品で保健衛生上のリスクが比較的低いものである。
- c 第三類医薬品に分類されている医薬品について、日常生活に支障を来す程度の副作用を生じるおそれがあることが明らかとなっても、分類が変更されることはない。
- d 薬局開設者及び店舗販売業者は、一般用医薬品を陳列する場合には、厚生労働省令で定めるところにより、第一類医薬品、第二類医薬品または第三類医薬品の区分ごとに陳列しなければならないが、配置販売業者にはこの規定は適用されない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問4】 一般用医薬品の適正な使用のために必要な情報の提供に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬剤師が区域管理者である配置販売業者は、配置販売に従事する登録販売者をして、購入者に第一類医薬品の情報提供を行わせることができる。
- b 書面を用いて購入者に必ず情報提供しなければならない一般用医薬品は、第一類医薬品及び第二類医薬品である。
- c 店舗販売業者は、第二類医薬品について購入者から相談があった場合、薬剤師または登録販売者をして、必要な情報を提供させなければならない。
- d 薬局開設者は、第三類医薬品の購入者から相談があった場合、薬剤師または登録販売者でない一般従事者をして、情報提供を行わせることができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正

【問5】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医師の管理・指導の下で患者が自己注射を行う医薬品が、一般用医薬品として販売されている。
- b 一般用医薬品の用量は、年齢に応じて服用量が定められているなど、使用する一般の生活者による判断の余地は少ない。
- c 人体に直接使用されない検査薬のうち、検体の採取に身体への直接のリスクを伴うものは、一般用医薬品として認められていない。
- d 医薬品には、医師若しくは歯科医師によって使用され、またはこれらの者の処方せん若しくは指示によって使用されることを目的として供給されるものがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問6】 医薬品の広告に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の効能に関するものであれば、わいせつにわたる文書を用いて広告をしてもよい。
- b 医師が医薬品の効能を保証したものと誤解されるおそれがある記事を広告してはならない。
- c 承認前の医薬品は、製造方法に関する広告をしてもよい。
- d 医薬品に関して墮胎を暗示する広告をしてはならない。

1 (a、b) 2 (c、d) 3 (a、c) 4 (b、d)

【問7】 一般用医薬品の広告に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の販売広告の規制には、店舗販売業において販売促進のため用いられるチラシは含まれない。
- b テレビ、ラジオ、新聞または雑誌の関係団体において、それぞれ自主的な広告審査が行われている。
- c チラシの同一紙面に、医薬品と食品を併せて掲載すること自体は問題ないが、食品について医薬品的な効能効果があるように誤認を与えるおそれがある広告表現は認められない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 8】 医薬品の広告に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 効能効果に一定の前提条件が付されている漢方処方製剤では、その一定の前提条件を省いて広告することは原則として認められていない。
- 2 漢方処方製剤の効能効果は、配合されている個々の生薬成分の作用と直接関連するため、それらの構成生薬の作用を挙げて説明することは適当である。
- 3 承認されている効能効果の一部のみを強調して広告することは適当である。
- 4 一般用医薬品において、同じ成分を含有する医療用医薬品の効能効果をそのまま標榜^{ほう}することは、承認されている内容を正確に反映した広告といえる。

【問 9】 一般用医薬品の販売方法に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a キャラクターグッズ等の景品類を提供して一般用医薬品を販売することは、いかなる場合であっても認められない。
- b 一般用医薬品を景品として授与することは、サンプル品を提供するような場合を除き、原則認められない。
- c 一般用医薬品を組み合わせで販売する場合は、購入者に対して情報提供を十分に行える範囲で、かつ、組み合わせることに合理性が認められるものでなければならない。
- d 店舗販売業者は、許可を受けた店舗以外の出張所に一般用医薬品を授与の目的で貯蔵することが認められている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 10】 薬事法の規定に基づく行政庁の監視指導に関する次の記述について、() の中に入れるべき正しい字句はどれか。

厚生労働大臣、都道府県知事、保健所を設置する市の市長または特別区の区長は、国、都道府県、保健所を設置する市または特別区の職員のうちから、() を命じ、薬局及び医薬品の販売業に関する監視指導を行っている。

- 1 医療監視員
- 2 立入監視員
- 3 薬剤監視員
- 4 薬事監視員

【問 1 1】 次の記述は、薬事法第 66 条の条文の一部である。() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

何人も、医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器の名称、(a)、効能、効果又は性能に関して、(b) であると (c) であるとを問わず、虚偽又は誇大な記事を広告し、記述し、又は流布してはならない。

	a	b	c
1	試験方法	具体的	抽象的
2	試験方法	明示的	暗示的
3	製造方法	明示的	暗示的
4	製造方法	具体的	抽象的
5	製造方法	直接的	間接的

【問 1 2】 保健機能食品に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

食品とは、医薬品及び (a) 以外のすべての飲食物をいい、そのうち (b) と栄養機能食品を総称して保健機能食品という。保健機能食品は、食生活を通じた健康の保持増進を目的として摂取されるものである。

	a	b
1	医薬部外品	特定保健用食品
2	化粧品	特定用途食品
3	化粧品	特定保健用食品
4	医薬部外品	特定用途食品

【問 1 3】 医薬品に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 製造業の許可を受けた者でなければ製造販売してはならない。
- b 製造販売業の許可を受けた者は、製造業の許可を受けなくても自ら製造できる。
- c 都道府県知事から承認を受けた場合、その成分が承認の内容と異なるものを製造販売することができる。
- d 製造業の許可を受けた者は、異物が付着しているものを、販売または授与の目的で製造してはならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 1 4】 薬局及び医薬品販売業に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 都道府県知事は、医薬品の調剤及び販売または授与の業務を行う体制が整っていないときには、薬局の許可を与えないことができる。
- b 配置販売業者は、いずれかの都道府県知事の許可を受けていれば、その他の都道府県の区域においても配置販売することができる。
- c 店舗販売業者は、一定の条件の下で、購入者の求めに応じて医薬品を配送する等、店舗を拠点とした販売を行うことができる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正

【問 1 5】 医薬品、医薬部外品及び化粧品に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品について化粧品的な効能効果を表示・標榜^{ほう}することは、過度の消費や乱用等の不適正な使用を助長するおそれがあり、承認された効能効果に含まれる場合を除き、適当でないとされている。
- 2 医薬部外品を販売する場合には、医薬品と同様に販売業の許可が必要である。
- 3 化粧品を業として製造販売する場合には、必ず品目ごとの承認が必要である。
- 4 化粧品は、どのような場合であっても医薬品の成分を配合してはならない。

【問 1 6】 次の記述は、薬事法第 24 条第 1 項の条文の一部である。() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) 又は医薬品の販売業の許可を受けた者でなければ、業として、医薬品を販売し、授与し、又は販売若しくは授与の目的で (b) し、若しくは陳列 ((c)) することを含む。) してはならない。

	a	b	c
1	医薬品の製造販売業	貯蔵	配置
2	医薬品の製造販売業	輸送	貯蔵
3	薬局開設者	貯蔵	配置
4	薬局開設者	輸送	配置

【問 1 7】 薬局及び医薬品の販売業に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売業の許可は、店舗販売業の許可または配置販売業の許可の二種類に分けられている。
- b 医薬品の販売業のうち、一般の生活者に対して医療用医薬品を販売することができるのは、店舗販売業の許可を受けた者のみである。
- c 店舗販売業者は、医薬品を店舗により販売または授与するほか、配置により販売または授与することができる。
- d 医薬品を取り扱う場所であって、薬局開設の許可を受けていないものは、病院または診療所の調剤所を除き、薬局の名称を付してはならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正

【問 1 8】 薬局に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局において、一般用医薬品のうち第一類医薬品の販売を行うためには、店舗販売業の許可が必要である。
- b 薬局では、医療用医薬品及び一般用医薬品を取り扱うことができる。
- c 薬局の管理者は、薬剤師または登録販売者でなくてはならない。
- d 薬局開設者は、保健衛生上支障を生ずるおそれがないように述べた薬局の管理者の意見を尊重しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問 1 9】 店舗販売業に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬剤師が従事している店舗販売業では、医師が発行した処方せんに基づき調剤することができる。
- b 薬剤師が従事している店舗販売業では、一般用医薬品を含むすべての医薬品を販売することができる。
- c 店舗販売業では、特定の購入者の求めに応じて、第二类医薬品を開封して分割販売することができる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	誤	誤

【問 2 0】 配置販売業に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 配置販売業は、購入者の居宅に医薬品を予め預けておき、購入者がこれを使用した後でなければ代金請求権を生じない販売形態である。
- 2 配置販売業では、すべての一般用医薬品を取り扱うことができる。
- 3 配置販売業者またはその配置員は、その氏名、配置販売に従事しようとする区域その他厚生労働省令で定める事項を、医薬品の配置販売に従事してから 30 日以内に、配置販売する区域の都道府県知事に届け出なくてはならない。
- 4 配置販売業者の配置員は、配置販売業者が発行する身分証明書の交付を受け、かつ、これを携帯しなければ、医薬品の配置販売に従事してはならない。

医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）

【問2 1】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人体にとって異物（外来物）ではない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は、そのすべてが解明されている。
- c 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に高いと考えられる。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問2 2】 次のうち、医薬品を適正に使用するために購入者が必要な情報として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の効能効果
- b 医薬品の価格
- c 医薬品の製造方法
- d 医薬品の用法用量

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問2 3】 次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項において、医薬品の副作用とは、「許可医薬品が（ a ）適正に使用された場合においてもその許可医薬品により人に発現する（ b ）反応」とされている。

	a	b
1	適正な使用目的に従い	有害な
2	適正な使用目的に従い	想定外の
3	適正な使用量の範囲で	有害な
4	適正な使用量の範囲で	想定外の

【問 2 4】 医薬品の副作用に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 眠気や口渇等の比較的良好に見られる症状は、副作用に含まれない。
- b 一般用医薬品は、通常は、重大な副作用よりも、その使用を中断することによる不利益を回避することが優先される。
- c 一般用医薬品の副作用は、容易に異変を自覚することができるものばかりではない。
- d 使用者が副作用を初期の段階で認識することは、副作用が重篤化しないために重要である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 2 5】 免疫とアレルギー（過敏反応）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 免疫は、本来、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応である。
- b アレルギーは、特定の物質によってしか起こりえない。
- c 医薬品によるアレルギーは、医薬品の有効成分のみによって引き起こされる。
- d 過去に医薬品によるアレルギーを起こしたことがない人は、どのようなときでも医薬品によるアレルギーを起こすことはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	誤

【問 2 6】 一般用医薬品の使用方法に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を使用しても、症状が改善しなかった場合、適切な医薬品が選択されていない可能性がある。
- b 疾病の根本的な治療はしないが、症状を一時的に緩和するために一般用医薬品を漫然と使用し続けることは、適正な使用の範囲といえる。
- c 一般用医薬品を服用する際に、症状を早く改善するために、定められた量よりも多く服用することは、不適正な使用といえる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤

【問27】 次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 人体に直接使用されない医薬品でも、使用者の誤解や認識不足によって使い方などを誤り有害事象につながることもある。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家は、大量購入や頻回購入を試みる購入者には、積極的に事情を尋ねたり、状況によっては販売を差し控えるなどの対応が望ましい。
- c 医薬品の乱用により慢性的な臓器障害を生ずることはない。
- d 医薬品の乱用により薬物依存が形成されても、そこから離脱することは容易である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問28】 次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品を他の医薬品と併用したり、特定の食品と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを(a)という。作用が(b)すれば、十分な効果が得られないなどの不都合を生じ、また、(c)すれば副作用が発生しやすくなる。

	a	b	c
1	薬理作用	増強	減弱
2	薬理作用	減弱	増強
3	相互作用	増強	減弱
4	相互作用	減弱	増強

【問29】 次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アルコールは、医薬品の代謝に影響を与えることがあるが、吸収に影響を与えることはない。
- b 生薬成分等には食品として流通しているものがあり、それらと医薬品を併せて摂取すると医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- c カフェインを含む医薬品とカフェインを含む食品と一緒に服用しても、食品中の量が少ないので特に注意する必要はない。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	誤

【問30】 次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児では、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすい。
- b 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- c 医薬品の使用上の注意等において「幼児」とは、おおよその目安として7歳未満をいう。
- d 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品であれば、医師の診療より優先して使用することが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問31】 次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

胎児は、誕生するまでの間は、母胎との間に存在する胎盤を通じて栄養分を受けとっている。胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが (a) 仕組みがある。

多くの場合、一般用医薬品を妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難であるため、妊婦の使用については「(b)」としているものが多い。

- | | a | b |
|---|-------|-----------|
| 1 | 混ざる | 相談すること |
| 2 | 混ざる | 長期連用しないこと |
| 3 | 混ざらない | 相談すること |
| 4 | 混ざらない | 長期連用しないこと |

【問32】 高齢者と医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」とは、おおよその目安として70歳以上を指す。
- b 高齢者は、肝臓や腎臓の機能が低下していることがあり、その場合には医薬品の作用が強く現れやすい。
- c 高齢者が一般用医薬品を使用する場合は、定められた用量以下に量を減らすことが望ましい。
- d 高齢者では、医薬品の説明を理解したり製品表示の記載を読み取ることが難しい場合等があるので、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要である。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |

【問33】 次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を使用する人が、医療機関・薬局で交付された医薬品を使用している場合には、その薬剤を処方した医師等に相談するよう説明する必要がある。
- b 特定の症状のある人が一般用医薬品を使用する場合、医療機関で治療を受けていなければ、注意は必要ない。
- c 慢性疾患が一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることはない。
- d 過去に医療機関で治療を受けていた人が一般用医薬品を購入する場合には、その疾患、治療した時期を踏まえた情報提供が重要である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問34】 プラセボ効果に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、結果的または偶発的に薬理作用によらない作用を生じることという。
- b プラセボ効果は、医薬品を使用したことによる暗示効果や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化等が関与して生じると考えられている。
- c プラセボ効果を目的として一般用医薬品を使用することも、適正な使用といえる。
- d プラセボ効果により、使用者にとって不都合な反応がもたらされることはない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問35】 妊婦が注意すべき医薬品に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて継続的に摂取すると、(a) を起こす危険性が高まるとされている。また、便秘薬の中には (b) を誘発するおそれがあるものがある。

- | | a | b |
|---|---------|----------|
| 1 | 胎児に先天異常 | 流産や早産 |
| 2 | 羊水過多 | 流産や早産 |
| 3 | 胎児に先天異常 | 分娩時出血の増加 |
| 4 | 羊水過多 | 分娩時出血の増加 |

【問36】 次の記述のうち、一般用医薬品承認審査合理化等検討会中間報告書「セルフメディケーションにおける一般用医薬品のあり方について」（平成14年11月）の中で、一般用医薬品の役割とされていないものはどれか。

- 1 生活の質（QOL）の改善・向上
- 2 健康状態の自己検査
- 3 医療用医薬品による副作用の軽減
- 4 健康の維持・増進

【問37】 セルフメディケーションに関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

セルフメディケーションの主役は、（ a ）であり、WHO（世界保健機関）によると、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に（ b ）を持ち、軽度な身体の不調は（ c ）手当てする」こととされている。

- | | a | b | c |
|---|-----------|----|------|
| 1 | 薬剤師や登録販売者 | 関心 | 専門家が |
| 2 | 一般の生活者 | 責任 | 自分で |
| 3 | 一般の生活者 | 関心 | 自分で |
| 4 | 薬剤師や登録販売者 | 責任 | 自分で |

【問38】 サリドマイドとその薬害に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド製剤は、催眠鎮静剤等として販売されていた。
- 2 サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損等の先天異常が発生した。
- 3 サリドマイドは、血管新生を妨げる作用があったために薬害が起こった。
- 4 一般用医薬品として販売されていたサリドマイド製剤はない。

【問39】 クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）訴訟に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 本訴訟の和解に際し、国は、生物由来の医薬品等の安全性を確保するために必要な規制の強化を行うことなどを誓約した。
- c 本訴訟の和解後、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- d この薬害の原因は、プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われていないヒト乾燥硬膜の原料を含む製品が使用されたことであった。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問40】 次の記述のうち、店舗販売業における登録販売者の対応として適当でないものはどれか。

- 1 小児を連れて人が、風邪薬を購入しようとしていたので、誰が服用するのか質問した。
- 2 前日に発熱で医療機関を受診したという人から、解熱鎮痛薬を購入したいと相談されたので、医師に相談するよう説明した。
- 3 数種類の睡眠改善薬を一度に購入しようとした人に対して、どのような目的で購入するのか質問した。
- 4 有効成分が多く含まれる医薬品の方が効果が強いため、どんな方にもお勧めであると説明した。

人体の働きと医薬品 (20 問)

【問 4 1】 消化器系に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消化管は、口腔から肛門まで続く管で、平均的な成人で全長約 9 m ある。
- b 消化液による消化は、機械的消化という。
- c 嚥下された飲食物は、重力によって胃に落ち込む。
- d 口腔内の pH がほぼ中性に保たれているのは唾液によるものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

【問 4 2】 胆嚢、肝臓に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 胆汁に含まれるビリルビンは、血液中のコレステロールが分解されて生じた老廃物である。
- 2 胆汁に含まれる胆汁酸塩は、炭水化物の消化を容易にし、水溶性ビタミンの吸収を助ける。
- 3 胆管閉塞や肝機能障害などを起こすとビリルビンが循環血液中に滞留して、黄疸を生じる。
- 4 アルコールは、肝臓へ運ばれて酢酸に代謝されたのち、さらに代謝されアセトアルデヒドとなる。

【問 4 3】 大腸に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 大腸は、盲腸、虫垂、上行結腸等からなる管状の臓器で、内壁粘膜に絨毛がある。
- 2 大腸の粘膜から消化液が分泌され、消化が活発に行われている。
- 3 通常、糞便は S 状結腸には滞留しない。
- 4 大腸で水分と電解質の吸収が行われている。

【問4 4】 呼吸器系に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻汁にはリゾチームが含まれ、気道の防御機構の一つとなっている。
- b 扁桃はリンパ組織が集まってできていて、気道に侵入してくる細菌、ウイルス等に対する免疫反応が行われる。
- c 咽頭は、発声器としての役割があり、咽頭上部にある声帯で呼気を振動させて声が発せられる。
- d 喉頭から肺へ向かう気道が左右の肺へ分岐するまでの部分を気管といい、そこから肺の中で複数に枝分かれする部分を気管支という。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問4 5】 肺に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 肺は、自力で膨らんだり縮んだりすることによって、呼吸運動を行っている。
- b 肺胞は、粘液層や線毛によって、異物や細菌の侵入を防いでいる。
- c 肺胞の壁を介して、二酸化炭素と酸素の交換が行われている。
- d 肺胞の壁は非常に薄くできていて、周囲を毛細血管が網のように取り囲んでいる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問4 6】 心臓に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

心臓の内部は上部左右の(a)、下部左右の(b)の4つの空洞に分かれている。心臓の右側部分(右(a)、右(b))は、(c)から集まってきた血液を(d)へ送り出す。

	a	b	c	d
1	心房	心室	肺	全身
2	心房	心室	全身	肺
3	心室	心房	肺	全身
4	心室	心房	全身	肺

【問47】 血管系に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 心臓から拍出された血液を送る血管を静脈、心臓へ戻る血液を送る血管を動脈という。
- 2 動脈、静脈とも血管壁が収縮すると血管は細くなり、弛緩すると拡張し、体性神経系によって制御されている。
- 3 心臓が収縮したときの血圧を最小血圧、心臓が弛緩したときの血圧を最大血圧という。
- 4 消化管壁を通っている毛細血管の大部分は、門脈と呼ばれる血管に集まって肝臓に入る。

【問48】 白血球に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

白血球の約60%を占めている(a)は、細菌やウイルス等を食作用によって取り込んで分解する。白血球の約1/3を占める(b)は、細菌やウイルス等の異物を認識したり、それらに対する抗体を産生する。また、(c)は、白血球の約5%と少ないが、最も大きく、強い食作用を持つ。

- | | a | b | c |
|---|------|------|------|
| 1 | リンパ球 | 好中球 | 単球 |
| 2 | リンパ球 | 単球 | 好中球 |
| 3 | 好中球 | 単球 | リンパ球 |
| 4 | 好中球 | リンパ球 | 単球 |
| 5 | 単球 | リンパ球 | 好中球 |

【問49】 腎臓に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 腎小体では、血液中の老廃物が濾過され、原尿として尿細管に入る。
- 2 骨髄における赤血球の産生を抑制するホルモンを分泌する。
- 3 食品から摂取または体内で生合成されたビタミンDは、腎臓で活性型に転換される。
- 4 水分及び電解質の排出を調節し、血圧を一定範囲内に保つ役割がある。

【問50】 目に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 角膜と水晶体の間は、組織液（房水）で満たされ、角膜に一定の圧を生じさせている。
- b 角膜や水晶体には血管が通っており、その血管によって栄養分や酸素が供給される。
- c 結膜は、眼瞼の裏側と眼球前方の強膜とを結ぶように覆って組織を保護している。
- d 水晶体は、遠くの物を見るときには丸く厚みが増し、近くの物を見るときには扁平になる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問51】 鼻に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻腔は、薄い板状の軟骨と骨でできた鼻中隔によって左右に仕切られている。
- b 鼻腔の粘膜に炎症を起こして腫れた状態を鼻炎という。
- c 副鼻腔に入った埃等は、粘液に捉えられて線毛の働きによって鼻腔内へ排出される。
- d 鼻中隔の前部は、毛細血管が豊富に分布していることに加え粘膜が薄いため、傷つきやすく鼻出血を起こしやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問52】 耳に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 耳は、側頭部の左右両側に一対あり、音の立体感を認識することができる。
- b 内耳は、鼓膜、鼓室、耳小骨、耳管からなる。
- c 半規管は、体の回転や傾きを感知し、耳石器官は、水平・垂直方向の加速度を感知する。
- d 乗り物酔いは、乗り物に乗っているとき反復される加速度刺激や動揺によって、平衡感覚が混乱して生じる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問 5 3】 筋組織に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

骨格筋は、収縮力が強い (a) であるが、疲労しやすく、長時間の動作は難しい。
心筋は、(b) であり、筋繊維に横縞模様が (c) 。

	a	b	c
1	随意筋	不随意筋	ない
2	随意筋	随意筋	ない
3	随意筋	不随意筋	ある
4	不随意筋	随意筋	ある
5	不随意筋	不随意筋	ある

【問 5 4】 中枢神経系に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 脳の一部には、自律神経系、ホルモン分泌等の様々な調節機能を担っている部位がある。
- b 脊髄には、呼吸を調節する呼吸中枢、心拍数を調節する心臓中枢がある。
- c 脊髄は脊椎の中にあり、脳と末梢の間で刺激を伝えるほか、末梢からの刺激の一部に対して脳を介さずに刺激を返す場合があり、これを脊髄反射と呼ぶ。
- d 脳の酸素の消費量は全身の約 20% と多いが、ブドウ糖の消費量は全身の約 5% と少ない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 5 5】 交感神経系が活発になったときの効果器の反応として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 末梢血管が拡張する。
- b 瞳孔が散大する。
- c 腸の運動が亢進する。
- d 膀胱の排尿筋が弛緩する。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問56】 医薬品の代謝、排泄に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品成分と血漿蛋白質との結合は速やかかつ不可逆的である。
- b 複数の医薬品を併用したときは、結合する蛋白質を医薬品成分の分子同士が互いに奪い合って、複合体を形成していない分子の割合が増す。
- c 血漿蛋白質と複合体を形成している分子は、腎臓で濾過され、大部分は、尿中に排泄される。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	誤	正	正

【問57】 医薬品の体内での働きに関する次の記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

医薬品が摂取された後、成分の吸収が進むにつれて、その血中濃度が上昇し、()を超えたときに生体の反応として薬効がもたらされる。

- 1 最小有効濃度
- 2 最高血中濃度
- 3 有効域
- 4 危険域

【問58】 医薬品の副作用に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 アナフィラキシーとは、遅延型の過敏反応である。
- 2 アナフィラキシー様症状とは、アナフィラキシーより症状が軽いものをいう。
- 3 スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症はいずれも皮膚の変化の数週間後に目の異変が起こる。
- 4 スティーブンス・ジョンソン症候群の発生頻度は、人口100万人当たり年間1～6人と報告されている。

【問59】 偽アルドステロン症に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 体内にナトリウムと水が貯留し、体からカリウムが失われたことに伴う症状である。
- 2 肝臓からのアルドステロン分泌が、増えていないにもかかわらず生じることから、偽アルドステロン症と呼ばれている。
- 3 体が小柄な人や高齢者では、生じにくい。
- 4 主な症状は、尿量の増加、血圧低下である。

【問60】 皮膚に現れる副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぶれ症状は、太陽光線に曝^{さら}されて初めて起こることもある。
- b 接触皮膚炎は、医薬品と触れた部分の皮膚のみに生じるのが特徴である。
- c 薬疹^{しん}は、皮膚以外に、目の充血や唇・口腔^{くわう}粘膜の異常として現れることもある。
- d 接触皮膚炎とは、アレルギー性と刺激性とに大別される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正